

千葉県将来人口の動向と
変化を踏まえた今後の対応策

平成24年10月

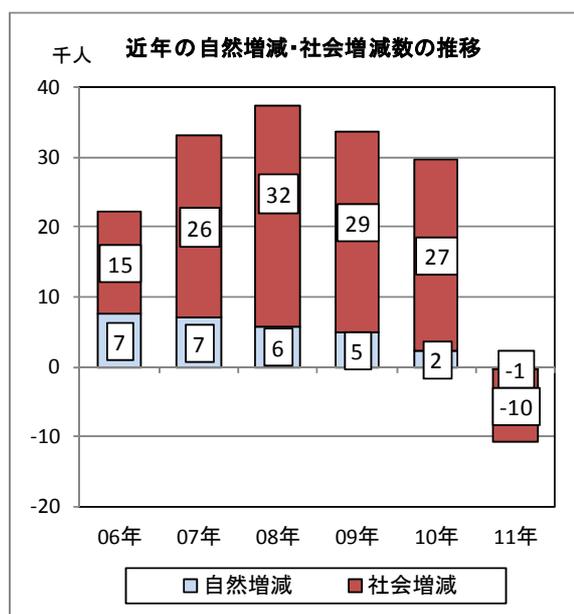
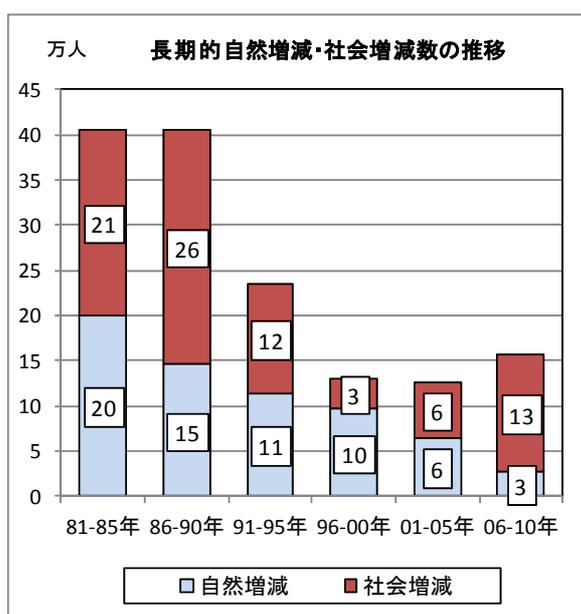
株式会社千葉銀行

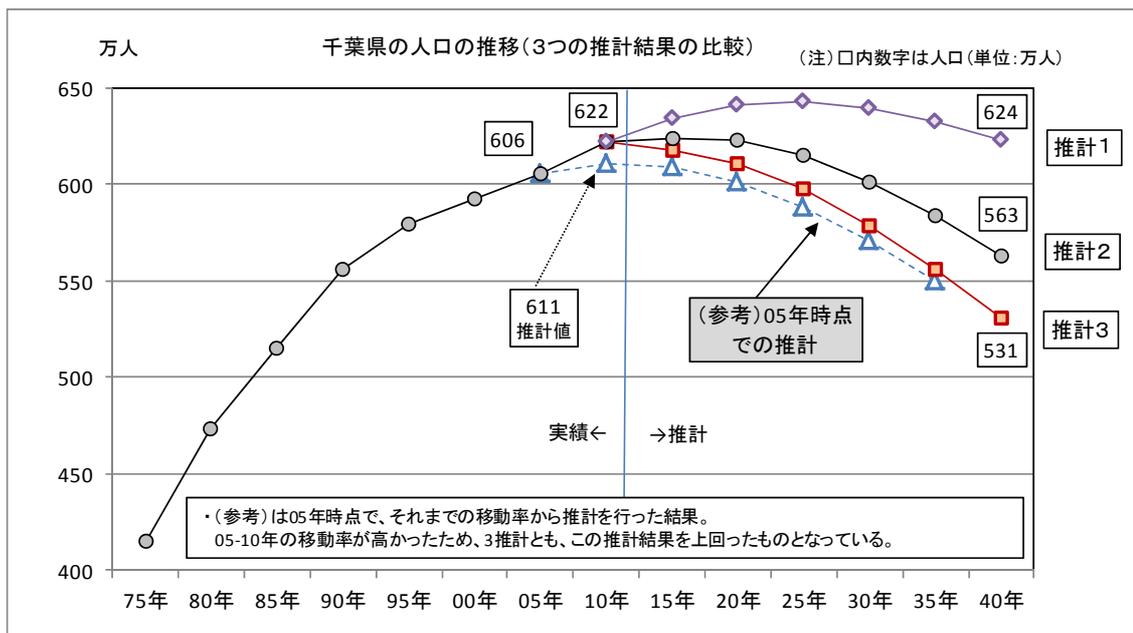
1. 「人口の変動要因と人口推計手法」（1章のポイントの整理）

1. 人口は「自然動態」（出生・死亡）と「社会動態」（転入・転出）により変動する。
2. 人口推計は通常5年ごとの国勢調査の詳細な人口データを用いて行う。しかし、今回は国勢調査後、東日本大震災・原発事故があり大きな人口変化が発生し、推計期間の30年間について現時点でその影響を見極めることは困難な状況である。このため今回は、通常的人口推計に加えて2つ、合計3つの推計を行った。
3. 今回の推計結果は、今後の復興状況により適宜見直されるべきものである。

2. 「千葉県人口の動向」（2章のポイントの整理）

1. 自然動態では、死亡数の増加によりプラスの幅は減少基調を続けている。
2. 社会動態は一貫して転入超過が続いているが、2000年代後半の5年間にその幅が大きく拡大した。
3. このため、増加基調が鈍化傾向にあった県の人口は、05-10年に増加幅を拡大させた。県内の開発等を背景として、千葉県が勢いを取り戻した期間といえる。
4. 大震災・原発事故後の2011年、千葉県の人口は、県が統計調査を開始して以降初めて減少した。内訳をみると自然増減の押し上げ要因の剥落と、転出増・転入減が要因だといえる。
ただし直近では、転入の減少は続いているものの、転出の増加には歯止めがかかり、人口は横ばい基調となっている。
5. 千葉県は居住地としての優位性は高く、また今後も多様なプロジェクトが予定されており、転入が促進されるポテンシャルを持っている。今後の人口動向については、震災以降の社会動態、特に転入の基調がどの程度回復するかがポイントとなる。





推計1	○一時的な困難を克服し、千葉県が本来持つポテンシャルを今後も長期的に発揮し続けた場合の推計
推計2	○一時的な困難を最初の5年程度で克服した後も、転入増加数は05-10年の高い水準までは回復できず、00-10年の水準程度にとどまる場合の推計
推計3	○現在の状況を克服できず、転入、転出がほぼ同水準にとどまる場合の推計

◇全国に占める千葉県人口、30年間の千葉県人口減少数のシェア

○全国人口に占める千葉県人口シェアの比較

	2010年		2040年			
	全国人口	県人口	全国人口 (社人研推計)	県人口 (推計1)	県人口 (推計2)	県人口 (推計3)
人口(千人)	128,057	6,216	107,276	6,235	5,627	5,305
千葉県シェア	100.0%	4.9%	100.0%	5.8%	5.2%	4.9%

(参考) 過去の全国人口に占める千葉県人口シェア

	1980年	1990年	2000年	2010年
千葉県シェア	4.0%	4.5%	4.7%	4.9%

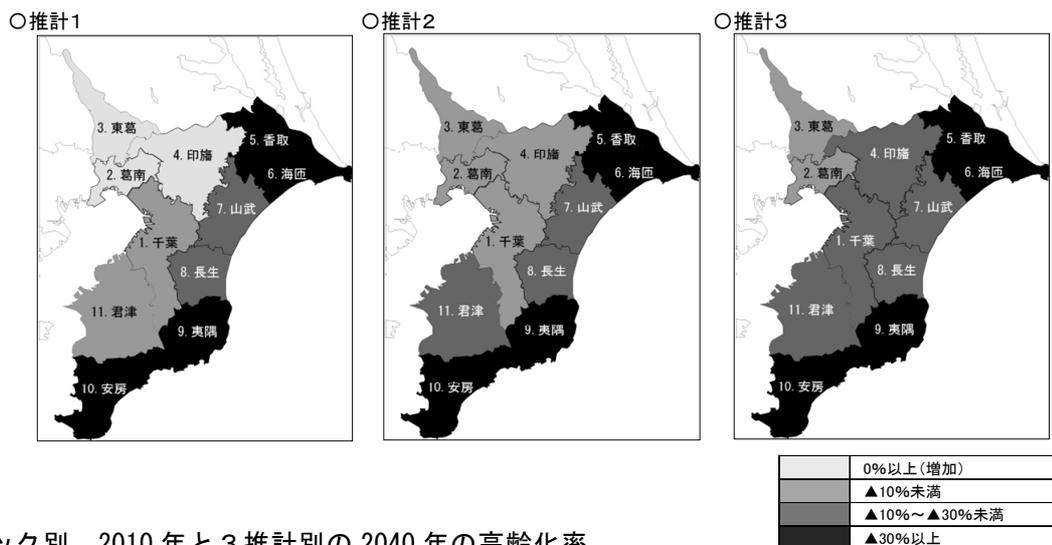
○2010~2040年の期間での全国人口減少数に占める千葉県人口減少数のシェア

	全国人口 (社人研推計)	県人口 (推計1)	県人口 (推計2)	県人口 (推計3)
人口(千人)	-20,782	19	-589	-911
千葉県シェア	100.0%	-0.1%	2.8%	4.4%

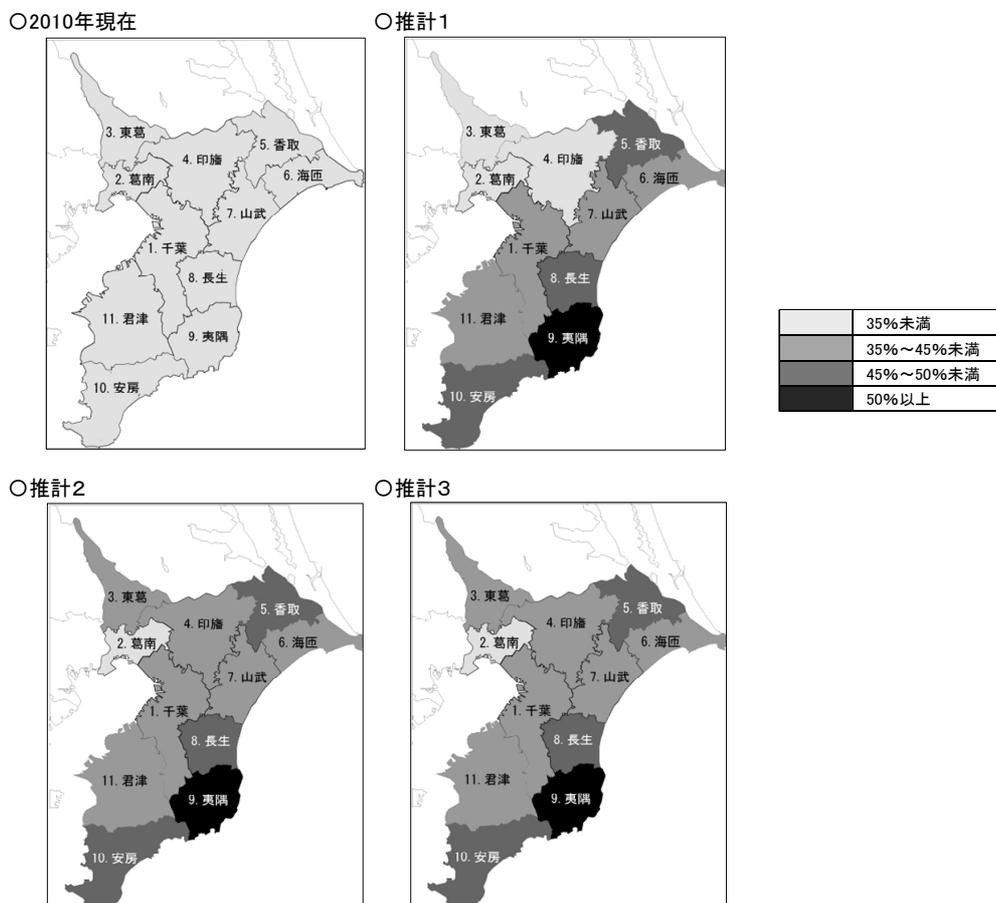
3. 「県内ブロック別・自治体別人口の動向」（3章のポイントの整理）

1. いずれの推計でも大きく人口が減少する地域がある。
 ・ 今後 30 年間で 30%以上減少する地域：香取、海匠、夷隅、安房ブロック
2. 各推計では、2040 年の高齢化率は香取、長生、夷隅、安房ブロックで上昇する傾向がみられる。

○11 ブロック別 3 推計別の 2010 年～2040 年の人口増減率



○11 ブロック別 2010 年と 3 推計別の 2040 年の高齢化率



4. 「人口の変化が千葉県にもたらす現象と今後の対応策」（4章のポイントの整理）

1. 将来の人口の動向は「総人口の減少」「老年人口の増加」「生産年齢人口の減少」「年少人口の減少」「地域による人口格差の拡大」の5つの変化に整理でき、それぞれが千葉県内にさまざまな現象を引き起こす。
2. 人口変化への対応策として今回は23の項目を提示するが、これらが今後千葉県に関わる各主体が、それぞれの立場で積極的に取り組んでいくべきことだといえる。中でも以下の7項目は、千葉県に固有の問題として、特に必要性和緊急性が高いと考える。
 - ①「震災後対策（液状化対策、除染作業）の早期終了」
 - ②「低下した千葉県のイメージの回復」
 - ③「魅力的な大規模住宅群の早期開発」
 - ④「人口構成に見合った新たな需要の創出」
 - ⑤「医療環境の整備」
 - ⑥「圏央道の早期開通と成田空港の競争力アップ」
 - ⑦「交流人口誘致の更なる促進」

■人口変化への23の対応策

切り口	項目
重点項目	1. 震災後対策（液状化対策、除染作業）の早期終了
	2. 低下した千葉県のイメージの回復
	3. 魅力的な大規模住宅群の早期開発
	4. 人口構成に見合った新たな需要の創出
	5. 医療環境の整備
	6. 圏央道の早期開通と成田空港の競争力アップ
	7. 交流人口誘致の更なる促進
移動率対策	8. 企業誘致による関係者移住の促進
出生率対策	9. 子育て施策の充実
	10. 地域で子育てをする環境づくり
経済面	11. 労働生産性の向上
保健・福祉面	12. 福祉施設・サービス体制の充実
生活環境面	13. 高齢社会前提のハード・ソフト面の整備
	14. アクティブ高齢者向け雇用・活動の場の整備
	15. 富裕高齢者向け居住の場の整備
	16. 地域での治安維持・危機管理体制の強化
教育面	17. 教育関係機関等の効率的な再配置
	18. 児童・青少年の居場所づくりの推進
行財政運営面	19. 効率的な行政運営・人員体制の見直し
	20. コンパクトシティ化の推進
	21. 持続可能な制度とするための給付と負担の見直し
	22. 高齢者が元気に生活できる環境の整備
	23. 効率的な財政運営